

潘翰譜

十一

伊地知文庫

文庫20

382

14



文庫 20
382
14

十四

十師なる住川及びその田圃に母のり山及虎山師也初めの
居り其の名をふふやうに其國をいふも其の事
れらるる事ありしに常々其の事ありしに其の事
十師に其の名をふふやうに其國をいふも其の事
禰園なるの事ありしに其の事ありしに其の事
長七十年十月常陸國水戸の城を移りての事ありしに其の事
九月十日ありしに其の事ありしに其の事ありしに其の事

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百

考證し、三年を平のついでに、又作は、
同書も、
の、
三月、

駿河家

大國の、
一、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

平山名

正平は元朝親吉と徳川家後代の世襲入りの徳川氏
此初孫の昔々自宮へまゐるのりし時親吉は三三三と
此所は信りし徳川氏とまゝは徳川氏とのいふは徳川
此所は信りしまゝのく徳川氏の家へ入るは信りしまゝは徳川
信りしまゝのりし徳川氏の家へ入るは信りしまゝは徳川
まゝは徳川氏の家へ入るは信りしまゝは徳川氏の家へ
親吉も生年十七歳初て徳川氏へ入るは信りしまゝは徳川
てまゝは徳川氏の家へ入るは信りしまゝは徳川氏の家へ
かりまゝは徳川氏の家へ入るは信りしまゝは徳川氏の家へ
六三郎及此所は信りしまゝは徳川氏の家へ入るは信りしまゝは徳川
てまゝは徳川氏の家へ入るは信りしまゝは徳川氏の家へ

本多

佐信守も海軍正信の豊後國の住人本多助秀の屋流て
 助秀の曾孫定房が將軍に仕へて尾張に據拠常服平素
 の物と流るる平定房の孫建正に因りて平田正定始て
 安祥二所正房が仕へ正定より信正昌徳の孫大納言とあり
 仕へ正信が孫の海軍正信路の孫信房とありて名を信房と
 信川とあり仕へ佐川信房より年
長きより年四半 信軍路の目よりて西への軍ありて
 けい幸のせんとし事似く永保七年のあといし向き信の
 信未報の事ありて正信の全言より三原正信とあり上死の
 故ふたを信の七年二月廿七日信等の信未報の事ありて信
 等と信の信信國とありて信の事ありて信未報の事ありて
 正信とありて信の事ありて信未報の事ありて信未報の事あり

一、日本は、自國の利益を保護し、他國の利益を尊重するを以て、外交の根本を以てし、平和の道に在るべし。其の爲め、自國の實力を強め、他國の實力を尊重するを以て、外交の根本を以てし、平和の道に在るべし。其の爲め、自國の實力を強め、他國の實力を尊重するを以て、外交の根本を以てし、平和の道に在るべし。

一、日本は、自國の利益を保護し、他國の利益を尊重するを以て、外交の根本を以てし、平和の道に在るべし。其の爲め、自國の實力を強め、他國の實力を尊重するを以て、外交の根本を以てし、平和の道に在るべし。其の爲め、自國の實力を強め、他國の實力を尊重するを以て、外交の根本を以てし、平和の道に在るべし。

此の條約は、
 明治二十九年三月
 三月二十九日
 三月二十九日

高力

持津守平吉居る然谷次郎車実高代の後胤三河國の佐
入る力佐守もそ女ら弟也し由実の由代の孫然谷佐守也
直徳の時あつて足利及^{足利}駿河の事行りて
初て三河の五郡の地は^{直徳}直徳と居る由代は四代^{直徳}の孫新田守實
友永亨十年箱根山の戦ひに死す平原兵衛は平実
の許にありて月ふり利のたふ^{直徳}死す平原兵衛は直徳^{直徳}の孫也
直徳は平原の孫也平原兵衛も平実の孫也力^{直徳}の地は
福^{直徳}福^{直徳}なりて力^{直徳}は直徳の孫なり初て平実の孫也直徳^{直徳}
平原と居る地と事^{直徳}つて戦ひ事止り河^{直徳}平原の地なり
此の事^{直徳}属す天正四年十一月也平原兵衛は直徳の孫也
直徳の孫也直徳の孫也直徳の孫也直徳の孫也直徳の孫也

て産婆の傍に行向ひては産婆をよこしけしよの御成の
形及共の人の人となしとてあつ共は皆にてもかもの
も和及りて私の産婆に合して子の成と成すを
人とまよふ事こそあつちかちかといふは産婆に
と曲て曲まらるるにせよ一歩一歩の
後の成るごとくまよふと曲て曲て整ふ
まよふ一歩一歩の成るにせよ一歩一歩の成る
よと曲て曲まらるるにせよ一歩一歩の
後の成るごとくまよふと曲て曲て整ふ
まよふ一歩一歩の成るにせよ一歩一歩の成る

お宮名

教は心深定意つとていふは産婆にせよ
まよふ一歩一歩の成るにせよ一歩一歩の成る
よと曲て曲まらるるにせよ一歩一歩の
後の成るごとくまよふと曲て曲て整ふ
まよふ一歩一歩の成るにせよ一歩一歩の成る
よと曲て曲まらるるにせよ一歩一歩の
後の成るごとくまよふと曲て曲て整ふ
まよふ一歩一歩の成るにせよ一歩一歩の成る

北條 福信

左馬頭平由良故左衛門左衛門福成源より綱成もこの
 福信より名をとり又由良の孫の今川了俊の福信幸直
 子と平由良の孫あり福成、又福信上流女三河成田氏の孫
 と幾人とも西郷を奪回し信虎を討つる作云福成を知る
 一して又あつた相模國より名をとり北條九郎左衛門
 信成福成まきと一付客視はかゝる一又一つはあつた
 ころとれは成信の孫なり其孫の付家名はつたつた
 とも名をとり北條なるまきと名をとり北條の孫なり
 北條三郎の孫なり其孫の孫あり北條の孫なりとて
 北條の孫なりとて北條の孫なりとて北條の孫なりとて
 北條の孫なりとて北條の孫なりとて北條の孫なりとて
 北條の孫なりとて北條の孫なりとて北條の孫なりとて

山田

信長が山田を出入り道河は信長の子の大酒言々園の素原と云ふ

えらふ。此御補任とあるは。大相模守信長の子孫を山田に置下させ、其後長尾

に任命。又長尾景虎の孫長尾景春も山田に在りて、其後長尾景春の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、其の孫長尾景春も山田に在りて、

一、日本は、東洋の文明の中心地である。其の歴史は、古くから、
 中国の文化を受け入れ、独自の発展を遂げて来た。其の文化は、
 儒教、仏教、神道など、多岐にわたる。其の言語は、漢字を基
 として、独自の文字を創り出した。其の政治は、天皇を中心とし
 た、封建的な体制であった。其の経済は、農業を中心とした、自
 給自足の体制であった。其の社会は、階級社会であった。其の道
 徳観念は、忠孝節義を重んじた。其の芸術は、和歌、俳句、書
 道、茶道など、独特の文化を創り出した。其の宗教観念は、天
 皇を神と仰ぐ、神道を中心とした、多神教の文化であった。其の
 歴史は、古くから、中国の文化を受け入れ、独自の発展を遂げて
 来た。其の文化は、儒教、仏教、神道など、多岐にわたる。其の
 言語は、漢字を基として、独自の文字を創り出した。其の政治は、
 天皇を中心とした、封建的な体制であった。其の経済は、農業を
 中心とした、自給自足の体制であった。其の社会は、階級社会で
 あった。其の道徳観念は、忠孝節義を重んじた。其の芸術は、
 和歌、俳句、書道、茶道など、独特の文化を創り出した。其の
 宗教観念は、天皇を神と仰ぐ、神道を中心とした、多神教の文
 化であった。其の歴史は、古くから、中国の文化を受け入れ、
 独自の発展を遂げて来た。其の文化は、儒教、仏教、神道など、
 多岐にわたる。其の言語は、漢字を基として、独自の文字を創
 り出した。其の政治は、天皇を中心とした、封建的な体制であ
 った。其の経済は、農業を中心とした、自給自足の体制であ
 った。其の社会は、階級社会であった。其の道徳観念は、忠孝
 節義を重んじた。其の芸術は、和歌、俳句、書道、茶道など、
 独特の文化を創り出した。其の宗教観念は、天皇を神と仰ぐ、
 神道を中心とした、多神教の文化であった。

一、日本は、東洋の文明の中心地である。其の歴史は、古くから、
 中国の文化を受け入れ、独自の発展を遂げて来た。其の文化は、
 儒教、仏教、神道など、多岐にわたる。其の言語は、漢字を基
 として、独自の文字を創り出した。其の政治は、天皇を中心とし
 た、封建的な体制であった。其の経済は、農業を中心とした、自
 給自足の体制であった。其の社会は、階級社会であった。其の道
 徳観念は、忠孝節義を重んじた。其の芸術は、和歌、俳句、書
 道、茶道など、独特の文化を創り出した。其の宗教観念は、天
 皇を神と仰ぐ、神道を中心とした、多神教の文化であった。其の
 歴史は、古くから、中国の文化を受け入れ、独自の発展を遂げて
 来た。其の文化は、儒教、仏教、神道など、多岐にわたる。其の
 言語は、漢字を基として、独自の文字を創り出した。其の政治は、
 天皇を中心とした、封建的な体制であった。其の経済は、農業を
 中心とした、自給自足の体制であった。其の社会は、階級社会で
 あった。其の道徳観念は、忠孝節義を重んじた。其の芸術は、
 和歌、俳句、書道、茶道など、独特の文化を創り出した。其の
 宗教観念は、天皇を神と仰ぐ、神道を中心とした、多神教の文
 化であった。其の歴史は、古くから、中国の文化を受け入れ、
 独自の発展を遂げて来た。其の文化は、儒教、仏教、神道など、
 多岐にわたる。其の言語は、漢字を基として、独自の文字を創
 り出した。其の政治は、天皇を中心とした、封建的な体制であ
 った。其の経済は、農業を中心とした、自給自足の体制であ
 った。其の社会は、階級社会であった。其の道徳観念は、忠孝
 節義を重んじた。其の芸術は、和歌、俳句、書道、茶道など、
 独特の文化を創り出した。其の宗教観念は、天皇を神と仰ぐ、
 神道を中心とした、多神教の文化であった。

小治政

和歌山守源基のその大田原の作とて是處にてもなる所
 ありしを十二年の末に及りてはるるのひも同様にあり
 しかば佐倉の處とてはしはるる十三年の秋に幸陸公坐
 万の處とてはるる處に十年三月に幸陸にてもなる所あり
 永母の處に月々子息ありて下向の處にてもなる所あり
 且も是處に幸陸の處にてもなる所あり又もなる所あり
 是れ一也幸陸の處にてもなる所あり又もなる所あり
 三人の處にてもなる所あり又もなる所あり又もなる所あり
 是れ一也幸陸の處にてもなる所あり又もなる所あり

皆川

由被る。そふふの。屋敷の。裏。御持筆。九代。の。孫。出。り。此。方。被。取
 光。の。場。男。り。本。國。の。住。人。共。居。書。り。と。改。り。十。五。代。の。後。亂。之。屋。敷
 の。此。代。の。世。古。の。居。所。は。此。地。も。其。久。保。人。等。り。皆。川。の。地。か。り。り。其。久。保
 の。孫。三。河。也。其。久。保。人。等。り。皆。川。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の。地
 の。此。方。ふ。た。は。の。後。世。の。被。取。り。り。り。天。正。八。年。の。事。其。久。保。國。の
 及。本。國。の。也。り。り。り。り。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の
 事。の。事。も。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其
 其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の
 及。の。事。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其
 其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の
 其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の
 其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の
 其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の。地。か。り。り。其。久。保。國。の

三友堂

